

福祉にいがた

Fukushi Niigata

CONTENTS

巻頭特集

息子輪禍死の悲しみ抱き

被害者支援活動に尽力(2~4面)

- 能登半島地震、新潟西区に災害ボラセン
- 新度県予算案、福祉11団体が知事に要望
- 「地域福祉文学」大賞作者にインタビュー

2月号
2024
第858号

絵 「北アルプス・剣岳Ⅱ」
作・永越 環（上越市）



社会福祉
法人

新潟県社会福祉協議会

<https://www.fukushiniigata.or.jp/>

バックナンバー
こちらから

立ち直りへ寄り添い続け

にいがた被害者支援センター

(理事・犯罪被害相談員)

巻頭
特集

交通事故被害者遺族

中曽根 えり子さん

(新潟市西区)

電話や面接で応談

警察、裁判所など付き添い 代理 傍聴も

愛する家族の命を突然、奪ってしまう事件や犯罪……。そんな悲劇に遭遇した被害者の遺族は悲しみの底に沈み、塗炭の苦しみにもがき続けることが多い。年月を経ても癒えない心の傷を抱えながらも、同じような被害者や遺族の支援に打ち込んでいる人がいる。新潟市西区の中曽根えり子さん。公益社団法人「にいがた被害者支援センター」(新潟市中央区)が2006(平成18)年に発足して以来、理事を務める一方、犯罪被害相談員として支援活動の一端に立ち続ける。自らの心の傷をそっと、いたわりながら……。

「今日はどんな相談が来るかな」。相談電話の当番の朝はいつも緊張する。

被害者支援センターの専用電話の前で息を整えた。

「相談電話の担当以外の日は、さまざまな支援活動に当たります」

被害者の希望に従って、警察や弁護士への対応、傍聴の付き添い、代理傍聴、

さらに担当検事への連絡など、活動の幅は広い。

さらに、請われて県内外で講演、講師も務める。

2022年8月、長野県内で開かれた犯罪被害者等支援者向け研修会。遠慮がちに話し始めた。

「私は皆様にお話できるような人生を送ってきたのではないのですが……」

確かに、夫と子ども4人と平凡に、平和に暮らしていた。あの日までは……。

◆◆◆
1999(平成11)年4



被害者・遺族の支援に尽力

生きる

月15日、今からちょうど4半世紀前の午後3時半過ぎだった。自宅で子どもたちの帰りを待っていると、電話が鳴った。3番目の子どもが小学校2年生になったばかりの長男、奨(しょう)さんが交通事故に遭ったことを知らせる電話だった。

学校の方へ車を走らせると、自宅近くの国道上にダンプが停まっていた。路上は鮮血に染まり、路肩には毛布。足元に、見覚えのある靴などが見えた。

「奨くん、奨くん!」。必死で呼んだ。返事はなく、体が動くこともなかった。

傍らにいた、当時50代後半の男性運転手のダンプカーにはねられて即死だったと、後で知った。

「あの時から何もかもが一変した。夫も、残った子ども3人も、私も」

突如、被害者の遺族となり、悲しみと苦しみの大海に放り出された。混乱の中での葬儀。遺族席に座っても実感のないままだった。

自身も長男(当時6歳)輪禍死

25年前 混乱悲痛、塗炭の苦しみ

葬儀の後、警察に事故の概要を尋ねた。奨さんは国道を渡る際「いったん立ち止まって渡り始めたときみられる」と知らされた。

「やはり」。日頃から交通ルールは教えてきたつもりだった。それだけに「飛び出していなかった」との

思いは確信に変わった。半面、疑問が膨らんだ。「では、なぜ死ななければならなかったのか」。

運転手は当時、業務上過失致死罪で起訴、新潟地方裁判所で懲役1年3月、執行猶予3年の判決を受け、そのまま確定した。

有罪は当然と受け止めたが、裁判の過程で受け入れがたい部分があった。

弁護士は、被告人が有利になるように質問。子どもが路上へ飛び出したため、避けられなかったとの論調に持ち込もうとした。傍聴

席からは反論もできず、納得できない思いが胸に積み重なっていった。その後、弁護士に勧められ、飛び出しの有無を争点に、損害賠償請求の民事裁判を起こした。

裁判では「奨さんは飛び出していない」との証言が、ほかの車両の運転手から得られた。その結果、判決では過積載で速度超過のダン

プがすぐには停まらず事故につながったと、加害者側の過失を重く認定した。息子の無念さを少しだけ、晴らせた気がした。

「にいがた被害者支援センター」2006年に全国都道府県のうち、42番目に発足。NPO法人の後、09年には現在の公益社団法人に。殺人や傷害、性犯罪などの刑法犯や交通事故により身体被害を受けた本人、家族・遺族への支援活動が目的で、財産被害は支援対象外。センターへ支援を求める連絡方法で手軽なのが電話相談。2

022(令和4)年度は約530件の電話を受け付けた。相談専用電話は次の通り。
【新潟】
025(281)7870
【長岡】
0258(32)7016
【上越】
025(522)3133
相談受付時間は午前10時～午後4時。

◆ ◆ ◆
裁判を終えても、生活や心の混乱は続いた。

「事故の後、どのように夫や子どもたちを毎朝、送り出していたのか、家事はどうしていたのか。今も思

い出せない」閉じこもる日も少なくなかった。養育放棄のようになり、残った子どもたちを

かわいいと思えなくなつた。死んでしまいたいとも

思った。周囲の心ない言葉にも傷付き、落ち込んだ。

あのころ、犯罪被害者を支援する社会の態勢は整っていなかった。

「裁判と言われてもその仕組みも分からず、どのように立ち回ればいいのか、戸惑いの連続だった」

混乱から抜け出す契機になったのは事故から3、4カ月後。全国交通事故遺族の会(既に閉会)を特集した新聞を夫が職場から持ち帰ったことだった。

「掲載されていた、県外の関係者を訪ね、遺族の自助グループを知った」

(4ページへ続く)



にいがた被害者支援センターで相談電話の前に座る中曽根えり子さん

時 当 被害者支援、機運薄く 裁判など戸惑い連続

(3ページから続く)

事故から2年後の2001年、知り合った被害者支援の先駆者が新潟県警に招かれて講演した。それを聞き、被害者支援の大切さを胸に刻んだ。

一方、全国では都道府県ごとに被害者支援センターの発足が相次いでいたが、新潟県は立ち遅れていた。新潟で講演した先駆者に背中を押され、新潟県のセンター設立準備に関わるようになった。

事故から7年後の2006年、全国42番目として「いがた被害者支援センター」が発足。理事となり、事務局長に就いた。

その後、今日までに支援センターは相談電話受付時間を拡充するなど、被害者の支援態勢を整え、活動は軌道に乗っていく。
この中で、センターの職

長男の輪禍死から7年後 2006年 新潟に「支援センター」 全国42番目

設立関与、事務局長に

全国組織
理事にも
県内外で講演や講師



長野県での研修会で講演する中曽根えり子さん（本人提供DVDから）＝2022年8月

被害者支援の指導や講師を担う「NNVS認定コーディネーター」となり、全国14人のうちの1人として活動の場を全国に広げている。

講師として演壇に立つと、被害者遺族の立場からも話す。「亡くなった人は戻って来ない。だから、遺族に元通りという意味での『回復』はない。愛する家族のいなくなった生活に慣れていく『適応』なのです」

さらに続ける。「適切な支援を受ければ、自分の力で人生を再構築できるようになる」「支援の結果、被害者やご遺族が前を向くようになると、やはりうれしい」

と支援の一線に立つ。さらに、公益社団法人「全国被害者支援ネットワーク」の理事（定数15）に県内から初めて就任。一方で被

もうすぐ春、祥月

命日の4月15日が近づく。今年は26回忌になる。同級生たちは30代の大人になっ

たが、動物が大好きだった息子は幼い面影のままだ。

あれから夫は病で他界、娘3人は実家を離れた。

「あの日、学校に迎えに行っていたら……。時を重ねても、後悔と自責の気持ちは薄まらない。

一方で、歳月をふるほどに、亡き息子への愛おしさは深まる。その思いを胸に、墓前に向かう。

「性暴力被害者支援センターにいがた」新潟県から性暴力や被害者支援の委託を受け「にいがた被害者支援センター」が16年から運営。

電話や面接での相談を受け付ける一方、病院や警察など関係機関への付き添いなど、ワンストップでの支援を実施。

相談専用電話は
#8891（はやくワンス
トップ）、または

025（281）1020
（24時間365日受け付け）

「適切な支援、遺族ら人生再構築」

自身の活動
寄せる思い

専門医がアドバイス 生きてきた自分 褒めて

「依存症を考えよう」テーマ

新潟市で「こわれ者の祭典」



専門医も加わった、依存症の当事者・体験者らの体験トーク

「病気だよー」「全員集合!!」。ステージと会場が一体となったコールを皮切りに、さまざまな生きづらさを抱える人たちの祭典「こわれ者の祭典」が12月24日、新潟市中央区の新潟市総合福祉会館で開かれました。

アルコールや摂食障害… 苦悩の日々乗り越え

21周年の祭典は「依存症を考えよう」がテーマ。新潟市を拠点に、若者の自立を支援する活動に取り組むNPO法人Clearfulmap(籠島高志代表理事)が主催しました。

第1部のトークには「こわれ者の祭典」代表の作家で会社員、月乃光司さん、新潟市西区など、アルコール依存症や摂食障害、対人恐怖症、パニック障害などの経験者や当事者の計4人が登壇しました。スペシャルゲストとして、上越市のさいがた医療センター

院長で依存症の専門医、佐久間寛之さんも加わり、語り合いました。

この中で当事者や経験者の4人は「子どもの頃は両親のけんかばかりで、良い家族関係でなかった」「食べては吐くことに依存していた」「生きる意味が分からなかった」などと、過去に苦悩した日々を吐露。

立ち直るきっかけについて「同じ立場の仲間とつながれた」「音楽に打ち込み気が紛れた」などと語り、生きづらさを抱える人たちが



「病気だよ!」「全員集合!!」が会場に響いた

に向けて「楽しいこと、好きなことを見つけて」「誰かを応援する『推し活』や、小さな観賞魚の飼育も良い」「いろんなことに分散して、それぞれ夢中になって」「仲間を見つけてつながると、楽になれる」などと、アドバイスしました。

これらのトークに、佐久間医師がコメント。「依存症は人間らしい病気があっても、その末に今も生きている自分を褒めてほしい。これでいいのだ、と」「自分と仲良くなるのが大切」「傷付いたなら仲間となめ合えばいい」など、現状肯定と励ましの言葉を述べ、拍手を集めました。

この後は当事者・経験者がそれぞれ、詩の朗読やギター弾き語り、自作の歌を披露しました。

第2部はギャンブルやアルコール、薬物などの依存症、摂食障害などの自助グループが登壇して活動をPRしていました。

能登半島地震 被災世帯の皆様へ

緊急小口資金 特例貸付のご案内

一時的な生活費にお貸しします

新潟県社会福祉協議会は、令和6年1月1日に発生した能登半島地震により被災した世帯の皆様へ当座の生活費として一時的な貸し付けを実施しています。

【貸付対象】

- ①災害救助法適用の地域に住所があり、当座の資金を必要とする世帯
- ②特例措置が必要な地域として設定された市町村(災害救助法適用外市町村)に住所があり、当座の資金を必要とする世帯
- ③貸付対象地域から新潟県内へ避難した人のうち、今後、1カ月程度以上、引き続き新潟県内に居住し、継続的に連絡を取ることが可能で、この特例措置の貸し付けが必要と認められ、当座の生活費を必要とする世帯

貸付を希望される場合

お住まいの、または避難先の市区町村社会福祉協議会へご相談ください。

【貸付限度額】

10万円以内(特例の場合は20万円以内)。

※特例の場合は次の通り。

- ①世帯者に死亡者がいる場合
- ②世帯者に要介護者がいる場合
- ③世帯者が4人以上
- ④このほか、重傷者、妊産婦、学齢児童がいる世帯で、新潟県社会福祉協議会長が認める場合

【償還の据置期間】

1年間

【償還期間】

据置期間経過後の2年間以内

【貸付利子】

無利子

事業実施主体：社会福祉法人「新潟県社会福祉協議会」

多くの人が穏やかな正月を奪われてから1カ月。日常を失った被災者の方々を考えると言葉も出ない。自分はいえ、直接的な被害はなく、幸運に感謝する毎日を過ごしている。

元日の地震発生とあって、帰省して被災したケースも多いようだ。被害はなかったものの東京から新潟を訪れた4歳のおいもその1人だ。自分の母親の実家であり、私も住む家で初めて経験した大地震が怖かったらしく、その日、祖母から離れなかった。片や私は、災害時の職場の取り決めに従い、地震直後、職場へ向かおうとした。そんな私に、おいが恐怖で震えな

「がんばれ」の魔法

2024
ずるむ
Vol.72

人を勇気づける力、今も


「がんばれ、おじー」
津波警報が発表され、余震も想定され、不安は拭えなかった。しかし、小さな体から絞り出されたその一言は私を奮い立たせた。

もちろん、まだ幼いおいが深く考えてから、その言葉を発したわけではなかっただろう。それでも、その言葉には人を勇気づける力があつたと私は断言したい。

そんな「がんばれ」も以前と違い、今は慎重に使わなければいけない言葉になってしまったようだ。時として、十分に頑張っている人を追い詰める「凶器」にもなりかねないという。そうしたことも承知の上で、純粹に応援する気持ちを込めた「がんばれ」を、私は否定したくない。

多くの人が大変な状況にある今だからこそ、その言葉が持つ力を信じてあえて言おう。

「がんばれ、みんな！」
(KILLIN)



災害義援金を募集

県共募 県内の被災者向け

1月1日に石川県能登地方を震源とする地震によって、新潟県内でも震度6弱を観測、14市町に災害救助法が適用されました。被災

された皆様に対して、新潟県共同募金会として心よりお見舞い申し上げます。

◆ ◆ ◆ 県共同募金会は、甚大な

被害を受けた県内被災者を支援するため災害義援金を募集しています。受付期間は6月28日までです。ご協力をお願いします。義援金

の受付口座は次の通り。

▽第四北越銀行白山支店

普通 1590791

□座名義 社会福祉法人

新潟県共同募金会

▽大光銀行新潟支店

普通 3043002

□座名義 社会福祉法人

新潟県共同募金会

▽ゆうちょ銀行

00130101515716

□座名義 新潟県共募能

登半島地震災害義援金

弁当を作って届けています。

配食希望は62世帯で、1

回に作る弁当は約75食です。調理ボランティアが弁当を作り、配達ボランティアが届けています。配達は

安否確認も兼ね、住民の安心安全も担います。

配達先では「ありがとうございます」と感謝の言葉が聞かれ、笑顔が広がっています。

「こんにちは赤ちゃん 出生祝い品贈呈事業」

同じく、赤い羽根募金運動の助成を受け、出雲崎町社会福祉協議会は子育て支援の一つとして赤ちゃん誕生のお祝いプレゼント事業を実施しています。

対象は町内で生まれた赤ちゃんで、お祝いの品はタオルセットです。

令和4年度は12人の赤ちゃんに渡しました。少子化で出生数が少ない中「1人でも多くの赤ちゃんにお祝いを」と願っています。

地域福祉向上に活用 赤い羽根共同募金

出雲崎町は 高齢世帯へ週1配食

赤ちゃんに誕生祝いも

令和5年度「赤い羽根共同募金運動」が3月末日まで全国で展開されています。募金運動に寄せられた善意は、皆さまがお住まいの地域福祉の向上に使われています。県内ではどんな

使われ方をしているのか、今年度は194万7千円の募金目標を掲げる出雲崎町の例をご紹介します。

【給食サービス事業】

赤い羽根募金運動の助成を受け、出雲崎町社会福祉



町内の高齢者へ配るお弁当をボランティアが準備

協議会は高齢者の健康維持に加え、安否確認につなげようと「給食サービス事業」



町内の赤ちゃんに贈られるタオルセット

を平成元年度から実施しています。

75歳以上の配食サービスを希望する世帯へ、8月を

除く毎週火曜日に夕食のお



赤い羽根



赤い羽根



知事への重点要望

- 大規模災害に備えた災害ボランティアセンターの設置・運営等に関する協定締結及び体制整備に係る財政支援
(新潟県社会福祉協議会)
- 民生委員・児童委員への理解と協力を広げるための広報活動の一層の充実
(新潟県民生委員児童委員協議会)
- 介護ロボット挿入支援補助金
(新潟県老人福祉施設協議会)
- 現行補助金額の堅持
(新潟県老人クラブ連合会)
- 障害のある人のスポーツ活動を組織的・継続的に支援していくための体制強化
(新潟県身体障害者団体連合会)
- 急激な物価高騰や賃金上昇を踏まえた要望
(新潟県手をつなぐ育成会)
- ひとり親家庭等就業・自立支援センター事業の相談体制の強化
(新潟県母子寡婦福祉連合会)
- 福祉職全体の人材確保に伴うPR活動
(新潟県社会福祉士会)
- 介護職員のキャリアアップ支援と就労促進の取り組み
(新潟県介護福祉士会)
- 介護支援専門員の就労促進の取り組み
(新潟県介護支援専門員協会)
- 新潟県からの官需拡大と民需拡大に向けた支援
(新潟県社会就労センター連絡協議会)

令和5年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、
障害者支援施設、
児童福祉施設などに

スケールメリットを活かした割安な保険料で
充実補償をご提供します！

◆加入対象は、社協の会員である
社会福祉法人等が運営する社会
福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

① 基本補償 (賠償・見舞)

保険期間1年

▶ 保険金額		基本補償 (A型)	見舞費用付補償 (B型)
賠償事故	身体賠償 (1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償 (1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償 (期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額 (期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害 (期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失 (期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	徘徊時賠償 (期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用 (期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用 (1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約 (賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用債権賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険) です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。

プラン1 オプション5 施設の感染症対応費用補償

休業補償から各種対応費用までワイドな安心

- ① 休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償
- ② 消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償
- ③ 感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 職員等の補償

プラン4 法人役員等の補償



団体契約者 ▶ 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
〈保険会社〉 TEL: 03(3349)5137

受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 ▶ 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667

受付時間: 平日の9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ22-12033 から抜粋)

福祉の人材不足対応を

11団体 知事と面会し要望

令和6年度新潟県予算案について、新潟県社会福祉協議会など県内11の福祉団体の代表が12月27日、県庁に花角英世知事らを訪ね、重点要望と一般要望をまとめた共同要望書を提出しました。(重点要望項目は8ページに掲載)



福祉11団体による花角知事への新年度予算共同要望

知事 要望には多く共感 実現するよう努力

各団体から取りまとめたのは知事に対しての11項目の重点要望と、福祉保健部長に対しての9項目の一般要望です。それらを一緒につづり、計20項目の共同要望書としました。

今回の重点要望では、深刻化する人材不足や人手不足の影響から、各団体からは「介護ロボット導入支援の補助金」「福祉職全体の人材確保に伴うPR活動」「介護職員のキャリアアップ支援と就労促進の取り組み」「介護支援専門員の就業支援の取り組み」など、時世を映し出した要望が相次ぎました。急激な物価高

令和6年度の県予算案に対し、県知事へ共同要望した福祉11団体は次の通り。
県社会福祉協議会▽県民生委員児童委員協議会▽県老人福祉施設協議会▽県老人クラブ連合会▽県身体障

害者団体連合会▽県手をつなぐ育成会▽県母子寡婦福祉連合会▽県社会福祉士会▽県介護福祉士会▽県介護支援専門員協会▽県社会就労センター連絡協議会

騰を踏まえ「光熱費補助」などの要望もありました。

花角英世知事との面会では、県社協の竹内希六会長が11団体を代表して共同要望書を提出。竹内会長は「福祉団体はそれぞれに課題を多く抱えている。福祉の充足へ向けて温かい予算

をお願いしたい」と述べました。要望を聞き終えた知事は「それぞれの団体からの話しを聞き、共感できる部分もたくさんあった。新年度の予算編成が本格化する時期であり、要望に応えられるように努力したい」と応えました。

竹内県社協会長は「温かみのある予算編成をお願いしたい」と、重ねて要望を伝えました。

知事への要望に先立ち、11団体は、令和5年8月に着任した中村洋心・県福祉保健部長に、予算案編成への一般要望書を提出しました。副部長や各課長らも同席する中、各代表らは団体の実情を訴え、予算実現を求めました。



中村洋心・県福祉保健部長（写真奥中央）らに予算要望

能登半島地震 県内も甚大被害



「お願いします！」 「お願いします！」と、笑顔で手を振るスタッフ（左）に送り出されるボランティアたち＝1月11日、新潟市西区の西区災害ボランティアセンター

新潟西区に災害V.C

ボランティアセンター

ボランティア 受け入れ送り出し順調

元日の能登半島地震で新潟県内も最大震度6を観測するなど大きく揺れ、各地に甚大な被害をもたらしました。中でも新潟市西区は液状化現象が広範囲に発生、住宅多数が傾いたほか、各地で道路が隆起するなど、被害規模は日を追

うごとに拡大しています。新潟市西区社会福祉協議会は「西区災害ボランティアセンター（V.C）」を設置。地震後初の週末の1月6日から一般ボランティアの受け入れを開始、支援要請のあった善久地区などへ順調に送り出しました。

災害V.Cは当初、西区寺

尾東で西区社協の入る建物1階に設置しましたが、手狭なため、1月9日に西区板井の「みどり森の運動公園」に移りました。

一般ボランティアは当初30人を募集。大学や日本赤十字社県支部などの団体も合わせて80人規模で作業しました。V.Cの移転後は募集ボランティアを50人に拡大。団体参加と合わせ、連日80人を数人ずつの班に分け、被災地へ送り出しました。

支援要請の多いのは、液状化で玄関先などに押し寄せた砂を除去する「泥出し」でした。

支援要請を求めてきた住宅の地域は当初、旧黒崎町の善久、山田、鳥原などが中心でした。その後、寺尾地区など、黒埼地区以外か

らの支援要請に伝えていきました。

ボランティア受け入れを開始した6日、V.Cから送り出されたボランティアが善久地区に入りました。

この地区は場所によっては立ち並ぶ住宅のすべてが液状化による被害を受け、家や車庫が傾き、壁などがひび割れていました。さらに、玄関先や車庫などには噴き出した砂が分厚く積もったほか、電柱もあちこちで傾き、電線も垂れ下がっていました。

この日は冷たい雨が降り続けましたが、ボランティアたちはスコップで重くなった砂をすくい、次々と土嚢袋に詰めました。

活動を見守る住民もいて「本当に助かる」と安心して表情を見せました。

実家に帰省していてボランティアに参加した女子大生は「防災士の勉強もしていることもあり、活動に加わった。砂が重いけど、頑張る」と話しました。

県社会福祉協議会も災害福祉支援活動本部を設置。職員の派遣などで災害V.Cの運営を支援しました。



活動場所を決めるマッチングを待つボランティアたち＝1月11日、新潟市西区災害ボランティアセンター

尊い汗と力 ありがとう

地震被災地
新潟市西区



民家のわきに積もった砂を取り除くボランティアたち。その民家や隣家の住民も出て手伝った＝1月11日、新潟市西区山田

傾いた電柱の傍らで、泥出し作業するボランティアたち。膨れた土嚢袋がたちまち増えていった＝1月6日、新潟市西区善久



住宅の庭先に積み重なった土砂をボランティアたちが取り除く＝1月11日、新潟市西区寺尾朝日通

移転した災害ボランティアセンターで、ボランティアたちが出発前に作業用具を選んだり＝1月11日、新潟市西区のみどり森の運動公園



災害ボランティアら奮闘

写真特集



冷たい雨の中、ボランティアたちが砂の除去に取り組む＝1月6日、新潟市西区善久



めくれた地面と倒れた塀のそばで、ボランティアたちが土砂除去の作業＝1月11日、新潟市西区寺尾朝日通



液状化の甚大な被害を受けた新潟市西区善久の一角。一帯の民家や電柱は傾き、電線もたわんだ＝1月6日

作者・竹田有友己さん（神奈川県）インタビュー

社協勤務、夫は上越出身

義母死去 残された家の庭に着想

福祉文学大賞
「さくらの夏休み」

新潟市西区社会福祉協議会が主催して全国公募した「地域福祉文学大賞」で、大賞を受賞した「さくらの夏休み」の執筆者、竹田有友己さん（ペンネーム、神奈川県在住）にオンラインでインタビュー。竹田さんは、新潟にも社協にも縁があることが分かりました。一問一答をご紹介します。

―作品募集は社協や職員が登場し、新潟にゆかりの筋立てという条件だった。構想は難しかった？

「私は横浜市社協で主に「さくらの夏休み」の着想は？」

「夫の実家の母は7年前に亡くなりました。葬儀の時、築後10年という古民家の庭の梅の木に青梅がたくさん実つていて、『義母はもう梅干しを作れないのね』と思ひ、その気持ちがずっと胸にありました」

―新潟弁の「くだすけ」が所々に登場する。

「義母が生前、よく使っていました。夫は『今の新潟はほぼ標準語』と言っています。今も使われるのか、分かりませんが、採り入れてみました」

―今回の作品公募を知ったきっかけは？

「職場の同僚がやはり新潟出身で『応募してみたら』と教えてくれました」

―これまでも小説は書いてきたのか？

「書くことが昔から好きでした。50歳になったのを機に小説講座を開設する学校に通い、習い続けています。仲間もいるし、挑戦を続けることは良いことだと思っているのです」

―これまで受賞は？

「九州の地方文学賞の大賞を頂戴しました。最近では、山口県長門市の依山温泉を舞台にした作品が、短編映画になりました」

―今回の作品、読んだ人に何を感じてほしい？

「この小説のように、福祉は目に見えない所で力になり、心を砕いている人がいる、そのことを分かってくらえたらうれしい」

※故郷を思う男女の一夏の物語を描いた短編映画「TAWARAYAMA」の原作は竹田有友己さん。地元青年会議所が短編映画化 YouTubeで鑑賞できる。

編集後記

傾いた家や車庫、ゆがんだ窓枠、ブロック塀……。新潟市西区善久の住宅地に入って驚いた。目が悪いのか、ぼけのせいなのか。すべて傾いて見える。住民が答えてくれた。「ここの家はみんな傾いた」

元日に発生した能登半島地震。震源地で多数の犠牲者や行方不明者を出し、新潟県内では新潟市西区で広く液化現象を引き起こした。家や電柱だけでなく、道路も隆起させたほか、所構わず大量の砂を残した。

地震後の週末、活動する災害ボランティアを取材しようと被災地に入った。被害状況は、報道で聞くのと実際に見るとでは大違い。想像以上の被害だ。これらの住宅地のどこをどう直せば、住民は元の生活に戻れるのか。まだ新しい家も多い。1軒1軒から嘆きが聞こえそう。一日も早い復旧復興を祈り、被災地と被災者のために自分のできることは何か、考えてみる。
(佐)



Zoomでインタビューに応じる竹田有友己さん。音声不具合が生じ、携帯電話も使用した。

Zoomでインタビューに応じる竹田有友己さん。音声不具合が生じ、携帯電話も使用した。Zoomでインタビューに応じる竹田有友己さん。音声不具合が生じ、携帯電話も使用した。

パレット新潟店営業日

2024年		2月						
日	月	火	水	木	金	土		
				1	2	3		
4	5	6	7	8	9	10		
11	12	13	14	15	16	17		
18	19	20	21	22	23	24		
25	26	27	28	29				

営業時間 11:30~16:30 □は休業日

福祉の店 パレット情報

この機関誌は、赤い羽根共同募金の助成を受け発行しています。

発行所/社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会
新潟市中央区上所2-2-2ユニゾンプラザ
☎ 025-281-5584
発行人/関原 貢
定 価/5円 (会員の購読料は会費に含む)

福祉にいがた
令和6年2月1日発行 (毎月1日発行)
印刷/島津印刷株式会社